

第三者意見



東京工業大学 環境・社会理工学院 教授
中崎 清彦 先生

本環境社会報告書は、項目ごとに方針（ポリシー）が記述されており、取り組みをわかりやすく伝えるための工夫がなされている。企業概要には売上高、経常利益が示されているが、事業活動が好調に推移していることがわかる。また、次世代を担うピアニストを発掘し、育成することを目的にShigeru Kawai国際ピアノコンクールが創設され、芸術を支える企業としての責任を果たし、同時に企業イメージを高める優れた戦略が展開されている。さらに、教育事業の海外展開では、中国をはじめとする新興国で音楽教室事業を継続し、生徒数は年々増加して、海外の顧客を増やす有効な手立ても講じられている。

なお、CSR活動では、音楽を通じた社会貢献としてチャリティーコンサートの継続、社会性報告として、コーポレートガバナンスが、これまでと同様、強固な体制で取り組まれていることが適正に報告されている。

環境への取り組みに対しては特筆すべきことがいくつかある。一つは、売上高、経常利益が伸びている中、産廃排出量の原単位が大幅に削減されていることである。昨年度は、グループ企業内で生産の仕組みが大きく変わったために、それまでに計画していた削減目標を一時的に満たさなかったが、今年度は、新しい仕組みに適正に対処して2015年度比14%以上もの大幅削減に成功している。これは、取り組みにおけるPDCAサイクルが適正に機能していることを表している。二つ目は、エネルギー使用の合理化のためのエネルギー管理を義務付けている、いわゆる省エネ法の事業者クラス分け評価制度で目標を達成した優良企業としてSクラスの評価を受けたことである。三つ目は、2017年11月に国内のピアノ生産工場である竜洋工場が緑化の推進と地域社会との積極的な交流を評価され、「緑化優良工場等関東経済産業局長賞」という大きな賞を受賞している。2017年度はこれまでの、環境に対する真摯で地道な取り組みが花開いた年ということができる。なお、国内外にわたって植林・植樹活動を継続し、インドネシアでは第二期植林が完成してこれまでのトータルで500ha、約50万本の植林を達成しているのみならず、新たにマングローブ林再生のための植林活動を開始しており、次の新しい取り組みが始まっている。

以上述べたように、環境への取り組みには目覚ましいものがあるが、ピアノや電子楽器の生産では、海外関係会社による生産が大きな割合を占めるようになってきていることから、国内外をトータルで考える必要がでてきている。今後は、海外における活動も含めた環境負荷データの把握に努めて、グローバルな環境負荷低減の取り組みを展開することで、グローバル企業として大きく発展することを期待している。

第三者意見を受けて

昨年度に続き、東京工業大学 環境・社会理工学院 中崎清彦先生より第三者意見を賜ることができました。厚く御礼申し上げます。

その中で、当社の新たな取り組みであります、次世代を担うピアニストの発掘、育成のための Shigeru Kawai 国際ピアノコンクールについて音楽芸術を支える企業としての責任と意義をご評価いただきました。また、環境の側面については、エネルギー使用や産廃排出に関する環境負荷削減への取組みと成果を、社会的側面に関しては工場緑化やカワイの森育成会の活動、チャリティーコンサートなどの地域への貢献活動をご評価いただき、誠にありがとうございます。

一方、ご指摘いただきましたグローバルな環境負荷低減の取組みの展開につきましては、今後の重要課題と受け止めて今後、積極的に取組みを進めてまいりたいと考えています。

いつも PDCA サイクルを適正に回していくことが重要であるとご指導いただいておりますが、頂いたご意見も踏まえ、今後、CSR 活動を確実に持続発展させ、持続可能な社会への貢献に努めてまいります。

(カワイ地球環境委員会 事務局)